

令和3年度 M探実施報告

1 研究開発名

「地球規模の視野で物を考えつつ、地域視点で行動するグローバル（Glocal）人材の育成」

2 概要

本校の探究活動は、グローバルリーダーに求められる諸資質の涵養を目指し、二本の柱からなっている。一つは、総合的な探究の時間を利用して3年間にわたり取り組む「M探」であり、もう一つは海外フィールドワークである。

今年度2年目を迎えたM探については、コロナ禍での模索を続けながら、オンラインを駆使した新しい探究スタイルの確立することができた。

また、三菱みらい育成財団の支援を受け、他校生とともに科学研究に取り組み、協働的に知を形作っていく探究活動や、オンラインで海外在住者と世界や地域の課題についてディスカッションするなどの活動も実現した。これらは今までのM探の弱点を補い、生徒の探究活動を充実させるものとなった。

ここ2年間見合わせてきた海外フィールドワークは、令和4年度、2学年の研修旅行という形で再開したいと考えている。

3 実績の説明

□各学年の課題研究

	1 学年《M探Ⅰ》	2 学年《M探Ⅱ》	3 学年《M探Ⅲ》
4 月	15 日 2 年生課題研究、海外派遣報告 21 日 ガイダンス 28 日 特別講義『ウイルスと感染』	21 日 一斉ガイダンス 28 日 M探グループ設定	15 日 ガイダンス 22 日 GW 中グローバルフィールドワークのプランニング
5 月	26 日 講演 「君はなぜ世界を作らないのか①」 神崎 史彦氏	19 日 M探講演会 井澤友郭氏 Online	6 日 動画・サマリー作成の設計 20 日 動画・サマリー作成の設計
6 月	2 日 課題設定① 9 日 課題設定② 23 日 研究手法について 30 日 ミニプレゼン	2 日 課題・仮説設定① 9 日 課題・仮説設定② 23 日 課題・仮説設定③ 30 日 ミニプレゼン（対教員）	3 日 動画のスク립トやサマリーを再度ブラッシュアップ 24 日 クラス別多文化発表会 リハーサル
7 月	6 日 仮説の設定、FW 計画作成 12 日 FW ガイダンス	5 日 ミニプレゼン（対教員） 7 日 アクションプラン作成 14 日 アクションプラン作成	1 日 クラス別多文化発表動画共有会 8 日 M探 多文化発表会 15 日 M探のまとめ
8 月	夏季休業期間 フィールドワーク		
	24 日 中間報告書作成	18 日 報告書作成 25 日 報告書作成	

9月	7日 夏季フィールドワーク共有会 21日 パートナシップ形成	8日 Phaze II に向けた課題再設定 15日 アクションプラン作成 29日 M探講演会 村尾隆介氏	
10月	5日 ミニ講演会①・オンライン相談会① 12日 ミニ講演会② 19日 ミニ講演会③ 26日 ミニ講演会④	6日 仮説設定 20日 グループ探究活動 27日 グループ探究活動	
11月	2日 講演会 「君はなぜ世界を作らないのか②」 神崎 史彦氏 9日 ミニ講演会⑤・オンライン相談会② 30日 ミニ講演会⑥	10日 発表準備 17日 ジャンル別発表会	
12月	7日 講演会「探究を論文化する」 菊池広人氏	1日 全体発表会 8日 英語レポート作成 15日 英語レポート作成	
1月	11日 クラス発表会準備 18日 クラス発表会	12日 英語レポートオンライン添削 19日 英語プレゼン動画の作成	
2月	1日 学年発表会 8日 論文作成 25日 全体発表会及び共有会	2日 英語プレゼン動画の作成 25日 1・2年合同発表会	
3月	3日 共有会の振り返り・論文の推敲 17日 次年度に向けて	2日 英語プレゼン動画オンライン添削	

□成果普及のための取り組み

(1)研究発表会（各学年）

(2)高校生フォーラムへの参加

(3)マイプロジェクトアワードでの発表等

1名が岩手県代表として全国大会出場

目標の進捗状況、成果、評価

□生徒の意識調査に基づく事業評価

「目標設定シート」における調査項目に関連する事項について、全校生徒を対象とした意識調査を1月に実施した。調査項目に関する経年変化について述べる。

質問項目	回答	R 1 SGH 最終年	R 2 M探初年度	R 3 M探2年目
1 自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組んだか	Yes	65%	40%	50%
	No	34%	60%	50%
2 自主的に留学や海外研修を行ったか	Yes	7%	0%	0%
	No	93%	100%	100%
3 将来留学したり、国際的な仕事に就きたいか	Yes	53%	47%	45%
	No	47%	53%	55%
4 公的機関から表彰されたか。またはグローバルな社会課題・ビジネス課題に関する大会で入賞したか	Yes	11%	9%	13%
	No	89%	91%	86%
5 探究的な学習活動は好きか	Yes	76%	65%	58%
	No	24%	35%	42%
6 課題研究を通して自分の進路はより明確になったか	Yes	35%	37%	33%
	No	65%	63%	67%
7 課題研究を通して国外の機関や専門家と連携したか	Yes	5%	3%	4%
	No	95%	97%	96%
8 グローバルな社会課題・ビジネス課題に関する大会に参加したか	Yes	5%	5%	5%
	No	95%	95%	95%
9 高校卒業後、海外の大学へ留学・進学するか(予定を含む)	Yes	10%	5%	14%
	No	90%	95%	86%

(1)自主的に社会貢献や自己研鑽に取り組む生徒数

コロナ禍の中、課題解決のためのアクションを外部で行うことが難しかったが、昨年度よりも実際に行動できた生徒が多くなったことは評価できる。

(2)自主的に留学または海外研修に行く生徒数

コロナ禍の中、渡航できなかった。

(3)将来留学をしたり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合

約半数の生徒は、国際的に活躍したいと考えている。

(4)公的機関から表彰された生徒数、グローバルな社会またはビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数

M探の成果を活用した大会にも、積極的にエントリーした。部活動での表彰も含まれている。

(5)課題解決のための探究的な学習を好む生徒の割合

探究活動を好む意識が生徒の間でも定着してきているが、全体から見ればここ3年間その割合位が低下している。コロナ禍で通常の活動ができなかったこともあるが、分析及び対策が必要である。

(6)課題研究を通して自分の進路はより明確になったか

M探の目的の1つ柱である「進路の明確化」ではあるが、生徒の意識においてはまだまだつながっていない。今後とも課題意識をもって取り組んでいかななくてはならない。

(7)課題研究に関する国外機関との連携数

生徒アンケートには表れてはいないが、2年生普通科の生徒は全員オンラインでのプレゼンテーションプログラムに参加した。

(8)グローバルな社会またはビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数

マイプロジェクトアワード2021には、1,2年生の課題研究の成果発表の場として多くの生徒が応募した。また、高校生フォーラム、英語ディベート大会、科学の甲子園などに応募した。

(9)高校卒業後、海外の大学へ留学・進学するか(予定を含む)

コロナ禍の中、留学へのニーズは逆に増している。

＊講演会等

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1年生：齋藤武彦（蘭州大学教授） | 菊池広人氏（元東北学院大学特任准教授） |
| 神崎史彦（スタディサブリ講師） | |
| 2年生：渡邊 洸氏（NPO 法人カタリバ） | 鈴木 胡美氏（NPO 法人カタリバ） |
| 村尾隆介氏（スターブランド株式会社） | 菊池広人氏（元東北学院大学特任准教授） |
| 井澤友郭氏（こども国連） | |

□教職員アンケートから事業評価

【質問事項】

《生徒の変化》

- (1) M探の様々な取組は、生徒の「国際的な対話力」向上に寄与したと思いますか。
- (2) M探の様々な取組は、生徒の「課題解決力」向上に寄与したと思いますか。
- (3) M探の様々な取組は、生徒の「情報発信力」向上に寄与したと思いますか。
- (4) M探の様々な取組は、生徒の学習意欲の向上に寄与したと思いますか。
- (5) M探の様々な取組は、生徒の進路決定に対して寄与したと思いますか。

《教員側》

- (6) M探の様々な取組は、本校の教育活動に役立っていると思いますか。
- (7) M探の様々な取組は、自分自身の授業改善につながっていますか。
- (8) M探の様々な取組にかかわることは、教員としてのモチベーションの高まりにつながっていますか。

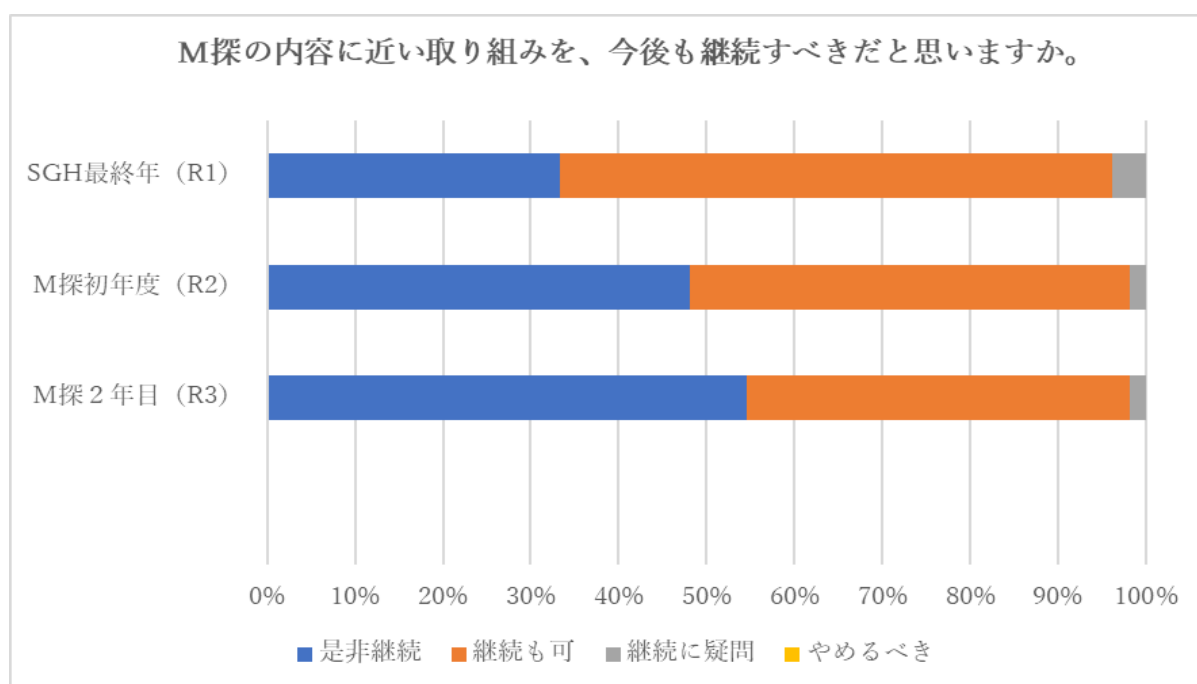
【選択肢】

- 4 大いにある 3 ある程度ある 2 それほどでもない 1 全くない

質問項目	R 1 SGH 最終年	R 2 M探初年度	R 3 M探2年目
(1) M探の様々な取組は、生徒の「国際的な対話力」向上に寄与したと思いますか。	3. 1	2. 9	3. 1
(2) M探の様々な取組は、生徒の「課題解決力」向上に寄与したと思いますか。	3. 4	3. 3	3. 3
(3) M探の様々な取組は、生徒の「情報発信力」向上に寄与したと思いますか。	3. 7	3. 4	3. 4
(4) M探の様々な取組は、生徒の学習意欲の向上に寄与したと思いますか。	2. 9	3. 0	3. 1
(5) M探の様々な取組は、生徒の進路決定に対して寄与したと思いますか。	2. 8	2. 8	2. 8
(6) M探の様々な取組は、本校の教育活動に役立っていると思いますか。	3. 4	3. 3	3. 4
(7) M探の様々な取組は、自分自身の授業改善につながっていますか。	2. 6	2. 6	2. 9
(8) M探の様々な取組にかかわることは、教員としてのモチベーションの高まりにつながっていますか。	2. 7	2. 7	2. 8

SGH に関する教職員アンケート（令和3年3月実施、職員 55 人回答）

- (1)令和3年3月に実施した教職員アンケート（全員が回答）では、M探を通じて生徒に身に付けさせたい3つの力である「国際的な対話力」、「課題解決力」、「情報発信力」の3項目に関して、いずれの項目についてもほとんどの教員がそれぞれの力の向上に寄与していると考えていることが分かる。
- (2)学習意欲の向上及び進路決定に対する寄与については、否定的な見解を持つ教員が2割程度おり、教科の学びや学びに向かう意欲につながる工夫、進路決定に対する視点がさらに求められるところである。



***次年度の課題**

アンケート及び自由記述から以下の点について改善が求められる。

- 1 探究活動の3年間の見通しとゴールの共有化。
- 2 進路指導との連携
- 3 全職員による指導体制の構築